

派遣先所属 福島県いわき建設事務所

氏 名 田中 規良 (たなか のりよし)、西岡 徹 (にしおか とおる)

派遣期間 平成27年4月1日～平成28年3月31日

1 派遣業務の内容、現況

突然ですが、あなたは祖父母の兄弟がどのような人であるかご存じですか。曾祖父母の兄弟の名前を知っていますか。

自分の親戚であっても、会う機会の少ない祖父母の兄弟、さらには曾祖父母の兄弟ともなると、その存在すら分からない方も多いのではないのでしょうか。

不動産を所有していた人が亡くなった場合、遺言や遺産分割協議で相続する人を決めない限り、その不動産は、配偶者や子、あるいは兄弟姉妹等が相続し、共有することになります。そして、共有者である配偶者や子等が亡くなった場合、その権利はその配偶者や子等に分けられ、さらに共有者が増えることとなります。土地の登記名義人が明治時代の人であった場合、その子孫など数十人、場合によっては数百人が共有者となっていることもあります。このような土地は、「多数共有地」と呼ばれ、土地の売買契約に当たっては共有者全員と契約を締結する必要があります。

私たちは現在用地課に所属し、公共用地の取得に関する事務に携わっています。道路の幅員や堤防のかさ上げ、橋梁の架け替え等に当たっては、道路予定地等の所有者の方から、福島県に土地をお譲りいただくことが不可欠です。地権者との交渉や補償金の算定に関する資料の作成等が、仕事の主な内容です。

震災から四年半が経過した現在でも、数多くの買収未了箇所が残されています。用地交渉が長期化する原因は各事例で様々ですが、その一つが多数共有地に関する問題です。

「もしもし、こちらは福島県いわき建設事務所の用地課です。福島県で買収させていただきたい土地の名義が、明治時代にお亡くなりになった〇〇〇〇様となっています。それはあなたの曾祖父のご兄弟に当たる方です。」

「へえ。そんな先祖がいるのですか。その土地はどこにあるのですか。」

多数共有地の地権者に電話をかけてみると、故人である土地名義人や権利のある土地の存在について、全く知らない場合も数多くあります。そのような方には、相続の状況や土地の所在地などを、家系図や地図を用いて丁寧に説明して、御理解いただけるようにしています。

時には、連絡先が分からなかったり、連絡が取れなかったりする方もいます。また、地権者が県外、あるいは国外に居住している場合もあり、買収には大変多くの事務量が必要となります。

このような多数共有地の他にも、用地買収が長期化している困難案件が数多く存在します。地権者との交渉は時に難航することもあります。職員は皆明るく取り組んでいます。売買契約の締結

に至った際には、担当職員に対するねぎらいの拍手が起こることもあります。

今後とも、少しでも多くの事業地を買収することで、復旧・復興の進展に貢献できるよう尽力したいと思っています。



被災状況写真（左：久之浜海岸、右：岩間海岸）

2 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想

「こちらは、いわき建設事務所の総務係です。このたびは、当事務所で働いていただくことになり、大変ありがとうございます。」

いわき建設事務所への赴任が決まり、派遣先の職員から初めて電話を受けた際にいただいた言葉です。

社会人として働く中で、「働いてくださりありがとうございます」と言われることはほとんどありません。どこか不思議な感覚を覚えるとともに、暖かい言葉に感謝の念を覚えました。また、復旧・復興に貢献したいとの思いを強くする一方で、福島県の期待に応えられるだろうかと一抹の不安を抱きました。

いわき建設事務所では、171人の職員が勤務しており、そのうち28名が他県等からの応援職員です。復旧・復興事業の影響で、平年と比べて業務量は著しく増大しています。また、応援職員や任期付職員等事務所で働く人の数は大きく増えており、仕事のスペースは手狭です。

福島県の職員の中には、震災や原発事故で自身や親族が被災した方もいます。業務量の増大に伴い、震災以降長時間の勤務が続いている人も多いです。

そのような状況の中、福島県の職員は前向きです。職務に対する姿勢は大変真摯で、朝は早くから夜遅くまで真面目にコツコツと仕事をしている姿を見ると、私たち応援職員は身の引き締まる思いがします。

また、多くの処理すべき事務を抱えながらも、職場の雰囲気はとてもアットホームです。福島県の事務の進め方に不慣れな応援職員に対しては、親切丁寧に色々と教えてくれます。休日には、有志で地元の祭である「いわきおどり」に参加したり、会津に旅行に行ったりして、皆で福島の魅力

を満喫しています。

年度当初は、福島県の職員から赴任への謝意を伝えられることもありましたが、今では、私たち応援職員の方が福島の方に対して感謝することが多いです。

「福島県で働く機会をくださり、ありがとうございます。」

このような思いを胸に抱き、少しでも福島に恩返しできるよう引き続き職務に邁進して参ります。

最後に、福島県は埼玉県から一番近い東北です。酒所で、観光地も会津、喜多方、猪苗代など見所がたくさんあります。現在私たちがいるいわき市には、フラガールで有名な「スパリゾートハワイアンズ」や「ふくしま海洋科学館（アクアマリンふくしま）」もあります。一方で、震災や原発事故の被害は大きく、震災から四年半が経過した現在においても、生活再建の途上にある方々が多くいます。

埼玉県の皆様には、是非一度福島県にお越しいただき、名所を訪れたり、福島の現在の姿を見聞したりすることで、復興の一助となっていただければと期待します。



事務所有志にて参加した「いわきおどり」の写真